

# Is It Truly Necessary?

Shingo Masuda  
+ Katsuhisa Otsubo

TOTOギャラリー・間 北九州巡回展

増田信吾 + 大坪克巨 展

それは本当に必要か。

2021.11.16|火| - 2022.3.6|日| TOTOミュージアム

開館時間: 10:00 - 17:00 (入館は16:30まで) 入館無料

休館日: 月曜日・年末年始 [2021年12月27日(月) - 2022年1月4日(火)] ※状況に応じ、会期・開館時間等は変更になる可能性があります。

主催: TOTOギャラリー・間 / TOTOミュージアム

企画: TOTOギャラリー・間運営委員会 (特別顧問=安藤忠雄、委員=千葉 幸 / 塚本由晴 / セン・クワン / 田根 剛)

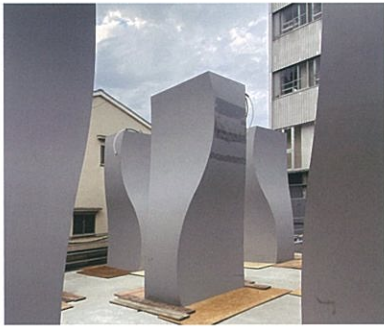
後援: (一社)日本建築学会九州支部 / (公社)日本建築家協会九州支部 / (公社)福岡県建築士会 / (一社)福岡県建築士事務所協会

協力: thorns D&C、井口雄介、オンドルデリンデ、永井杏奈 群像の恵(千葉県、2014年) ©石山和広





始めの屋根(東京都、2016年) ©Anna Nagai



goodoffice 品川(東京都、2021年) ©増田信吾+大坪克亘



つなぎの小屋(神奈川県、2018年) ©Anna Nagai



リビングプール(山形県、2014年) ©Anna Nagai

## それは本当に必要か。Is It Truly Necessary?

最初の設計は、住宅の塀だった。家の境界を成す1枚の壁によって、僕たちのそれまでの建築の価値観は一変した。10m足らずの壁が、切実でありながら、人の生活と庭の植生、街並みを巻き込んでいった。それは、その家の暮らしとその境界にとって、最も設計すべき前提に思えた。これ以降、自分たちの思い描いたものをかたちづくるための設計はしていない。では、何を設計するのか。

この展覧会では、これまでの実践において、それぞれどのように設計されるべきことを発見し、状況の中に定着させてきたかを整理してみる。

その場に根本的な影響を与えられる仕組みが設計されることこそ価値はある。異なる場の成り立ちがぶつかる境界上や、窓や基礎や軒といった部分、見過ごされがちな細かな気付きに、その価値の源が潜んでいたりする。

外側まで大きく視野を広げること、そして目を凝らすことを同時に重ねることで、本当に必要なものは何か、を改めて考える。

増田信吾+大坪克亘

増田信吾+大坪克亘(建築家) Shingo Masuda + Katsuhisa Otsubo

2007年に増田信吾(1982年生まれ)は武蔵野美術大学を卒業、大坪克亘(1983年生まれ)は東京藝術大学を卒業し、増田信吾+大坪克亘を共同主宰。増田信吾は2019年より明治大学特任准教授。主な作品に「躯体の窓」(2014)、「リビングプール」(2014)、「始めの屋根」(2016)、「街の家」(2018)、「つなぎの小屋」(2018)、「庭先のランドマーク」(2019)など。主な受賞にAR Emerging Architecture Awards 大賞(2014)、第32回吉岡賞(2016)などがある。



増田信吾(左)+大坪克亘(右) ©Anna Nagai



ウチミチニワマチ(東京都、2009年) ©増田信吾+大坪克亘

### ■ 増田信吾+大坪克亘 展 特別映像

「それは本当に必要か。」

展覧会に併せ、増田信吾+大坪克亘が自身の作品を語る映像をオンラインにて公開します。詳細は、TOTOギャラリー・間ならびにTOTOミュージアムウェブサイトでご案内いたします。

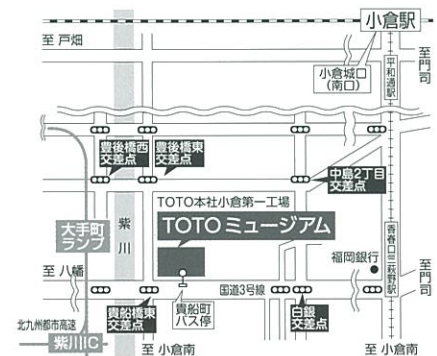
### ■ 関連書籍

『Adaptation 増田信吾+大坪克亘作品集』

発行年:2020年 発行:TOTO出版(TOTO株式会社)

お問い合わせ:TEL.03-3402-7138

<https://jp.toto.com/publishing>



(バス) 小倉駅バスセンター1番のりばから[21][22][43]系統バスまたは2番のりばから[25]系統バスで約15分「貴船町」バス停下車(北九州モノレール) 香春口三萩野駅南口下車、国道3号線を八幡方面に徒歩約10分

TOTOミュージアム: 〒802-8601 福岡県北九州市小倉北区中島2-1-1  
TEL.093-951-2534 <https://jp.toto.com/museum>